

# CentreCOM® 8948XL リリースノート

この度は、CentreCOM 8948XL をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。  
このリリースノートは、取扱説明書（J613-M0021-10 Rev.A）とコマンドリファレンス（J613-M0021-12 Rev.B）の補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。  
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

## 1 ソフトウェアバージョン 2.6.2 pl02 (2.6.2-02)

## 2 本バージョンでの制限事項

ソフトウェアバージョン 2.6.2 pl02 には、以下の制限事項があります。

### 2.1 SET LOADER、LOAD コマンドについて

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「アップロード・ダウンロード」

SET LOADER コマンドで HTTPPROXY パラメーターと SERVER パラメーターを同時に指定した場合、SERVER パラメーターの設定が保持されず、以後 LOAD コマンドが正しく動作しません。HTTP プロキシ経由でファイルをダウンロードするときは、LOAD コマンドで必ず SERVER パラメーターを指定してください。

### 2.2 ログについて

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」

- DISABLE LOG OUTPUT コマンドでログ出力先「PERMANENT」を無効にして設定を保存しても、システムを再起動すると「PERMANENT」にログが記録されます。
- スイッチポートのリンクアップ / リンクダウンのログが出力されません。

### 2.3 トリガーについて

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「トリガー」

CREATE TRIGGER コマンドの REPEAT パラメーターに回数 (count)、NO、ONCE のいずれかを指定した後、設定をファイルに保存すると、設定ファイル上の REPEAT パラメーターの値が入力時とは異なることがあります。このようなときは、EDIT コマンドで設定ファイルを開き、REPEAT パラメーターの指定を修正してください。また、設定ファイルを PC などで作成し、本製品にダウンロードする方法もあります。

### 2.4 SNMP について

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

- 電源ユニット (PSU) を 2 個装着している状態で、片方の電源の状態が変化するとき、PSU Status Change Trap ではなく Temperature Trap が送信されます。

- スイッチポート 49～52 のインターフェース統計情報を正しく取得できません。また、SHOW INTERFACE コマンド (COUNTERS オプション) の表示も正しくありません。SHOW SWITCH PORT COUNTER コマンドでは正しい値が表示されます。
- ブロードキャスト受信時に、VLAN インターフェースの ifInDiscards (MIB-II) がカウントされます。

---

## 2.5 ポートランキングについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

- すべてのトランクポートがリンクダウンしても、トランクポートに登録された MAC アドレスが FDB から削除されません。
- トランクポートでタグ VLAN を使用している場合、本製品・対向機器ともにフローコントロールが有効な状態でトランクポートのケーブルを抜き差しすると、本製品が PAUSE フレームを送信することがあります。
- CREATE SWITCH TRUNK コマンドで複数のトランクグループを作成後、設定を保存して再起動すると、トランクグループの設定が作成時と異なる順序で読み込まれるため、表示上の順序が変更されます。なお、動作には問題ありません。

---

## 2.6 IP サブネット VLAN について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「バーチャル LAN」

クラス標準でないマスクを設定した IP サブネット VLAN (例えば、SUBNET=172.16.10.0 MASK=255.255.255.0) は正しく機能しません。

---

## 2.7 マルチプル VLAN (Private VLAN) について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「バーチャル LAN」

- Private VLAN に所属しているポート (アップリンクポート、プライベートポート) は、タグ付きに設定されていても、タグなしパケットを転送します。
- Private VLAN のアップリンクポートをタグ付きに、プライベートポートをタグなしに設定した後、設定を保存して再起動すると、エラーが発生しプライベートポートが削除されます。このようなときは、EDIT コマンドで設定ファイルを開き、プライベートポートの設定を追加してください。また、設定ファイルを PC などで作成し、本製品にダウンロードする方法もあります。

---

## 2.8 スパニングツリープロトコルについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「スパニングツリープロトコル」

- ENABLE STP コマンドを実行すると、DISABLE STP PORT コマンドによる各ポートの STP 無効の設定が削除され、STP が有効になります。

- STP 有効時に ADD VLAN PORT コマンドを実行すると、VLAN 内のすべてのポートにおいて、STP のポートステータスが初期化されます。
- DISABLE STP PORT コマンドに続いて ENABLE STP PORT コマンドを実行すると、ARP キャッシュからスタティックエントリーが削除されます。

---

## 2.9 802.1X 認証について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「802.1x 認証」

PIGGYBACK=TRUE の Authenticator ポートにおいて、ある Supplicant を認証した後、PIGGYBACK=FALSE に設定を変更しても、直接認証を受けていないホスト（PIGGYBACK で通信しているホスト）のエントリーが FDB から削除されないため、引き続き通信が許可されます。

---

## 2.10 TRACE コマンドについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

SET TRACE コマンドのパラメーターに有効範囲外の値を指定してもエラーにならないことがあります。

---

## 2.11 IP 統計情報の表示について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

- IP チェックサムエラーの packets を受信しても、SHOW IP COUNTER コマンドの inHdrErrors カウンターがカウントされません。
- ICMP アドレスマスク応答メッセージ受信時に、SHOW IP COUNTER コマンドの inAddrMaskReps カウンターがカウントされません。

---

## 2.12 BGP-4 (AT-FL-09) について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (BGP-4)」

RIP 経路を BGP-4 で配布している場合、RIP 経路のメトリックが 16 になっても、ただちに経路の取り消しをピアに通知しません。該当 RIP 経路がシステムの IP 経路表から削除されたときにはじめて通知します。

---

## 2.13 DNS サーバーアドレスの動的取得について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「名前解決」

ADD IP DNS コマンドの INTERFACE パラメーターで、DNS サーバーアドレスを DHCP で動的に取得するよう設定していないにもかかわらず、DNS サーバーアドレスが動的に取得されます。

---

## 2.14 複数経路が存在するときの IPv6 ルーティングについて (AT-ACC01)

 [「コマンドリファレンス」](#) / 「IPv6」

特定アドレス宛での経路が複数存在する場合、IPv6 パケットのルーティングがソフトウェア処理になります。

---

## 2.15 IPv6 の PING について (AT-ACC01)

 [「コマンドリファレンス」](#) / 「IPv6」

PING コマンドで IPv6 のグローバルアドレスを指定し、なおかつ、送出インターフェース名を指定すると、リポートすることがあります。グローバルアドレス指定時は、送出インターフェースを指定しないでください。

---

## 2.16 6to4 トンネルインターフェースの作成について (AT-ACC01)

 [「コマンドリファレンス」](#) / 「IPv6」 / 「IPv6 インターフェース」

- ADD IPV6 6TO4 コマンドで 6to4 トンネルインターフェースを作成したとき、「v6 over v4 tunnel successfully」と表示されます。
- ADD IPV6 6TO4 コマンドで同じ IP アドレスを持つ 6to4 トンネルインターフェースを複数作成できてしまいます。

---

## 2.17 SET IPV6 PREFIX コマンドについて (AT-ACC01)

 [「コマンドリファレンス」](#) / 「IPv6」 / 「近隣探索」

SET IPV6 PREFIX コマンドの設定をした場合、コマンド入力直後は正しく機能しますが、設定保存後に再起動すると正しく機能しなくなります。

---

## 2.18 Neighbour キャッシュについて (AT-ACC01)

 [「コマンドリファレンス」](#) / 「IPv6」 / 「近隣探索」

- RESET IPV6 NDCACHE コマンドを実行しても、FDB から MAC アドレスが削除されないことがあります。設定を保存して再起動すれば削除されます。
- VLAN 内にリンクアップしているポートが 2 つ以上ある場合、IPv6 機器を同一 VLAN 内の別のポートに移動しても Neighbour キャッシュが更新されないため、該当機器との通信が正しく行えなくなることがあります。

---

## 2.19 DVMRP について

 [「コマンドリファレンス」](#) / 「IP マルチキャスト」 / 「DVMRP」

- DVMRP モジュールを有効にしたとき、すでに IGMP のグループリストに登録されていたポートを DVMRP の転送表（転送キャッシュ）に登録しません。

- DVMRP インターフェースを削除し、再度追加した場合、該当インターフェース上の DVMRP 経路がホールドダウン状態のままとなります。

---

## 2.20 DHCP サーバー機能について

 **「コマンドリファレンス」 / 「DHCP サーバー」**

ADD/SET DHCP POLICY コマンドの以下のパラメーターに 40 個以上のアドレスを指定すると本製品がリポートします。これらのパラメーターに指定するアドレスは 39 個までにしてください。

COOKIESERVER, DNSSERVER, IMPRESSSERVER, LOGSERVER, LPRSERVER, NAMESERVER, NBDDSERVERS, NBNAMESERVERS, NISERVERS, NTPSERVERS, POLICYFILTERING, RESOURCESEVER, ROUTER, STATICROUTE, TIMESERVER, XDISPLAYSERVERS, XFONTSERVERS

---

## 3 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足・誤記訂正

同梱の取扱説明書、および CD-ROM に収録されている「CentreCOM 8948XL コマンドリファレンス 2.6 (Rev.B)」の補足事項です。

---

### 3.1 HTTP サーバー (サポート対象外) について

本製品はデフォルトで HTTP サーバー (サポート対象外) が有効になっているため、IP 有効時は TCP ポート 80 番がオープンしています。セキュリティを重視する場合は、DISABLE HTTP SERVER コマンドを実行して、HTTP サーバーを無効にしてください。

---

### 3.2 送信元アドレスがマルチキャストアドレスのフレームについて

受信した Ethernet フレームの送信元アドレスがマルチキャストアドレスだった場合、このフレームは転送されずに破棄されます。

---

### 3.3 ポートトランッキングについて

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」**

- ルーティング後トランクグループから送信される IP パケットの送出ポートは、ENABLE / DISABLE SWITCH HASH コマンドの設定とは関係なく、L3 ヘッダー情報にのみ基づいて決定されます。その他のパケットには、同コマンドの設定が適用されます。
- ポートトランッキングは下記の機能と併用できません。
  - ・ スパニングツリープロトコル
  - ・ DVMRP
  - ・ IGMP/IGMP Snooping
  - ・ MLD Snooping

---

### 3.4 ポート帯域制限機能と重み付きラウンドロビンスケジューリングの併用について

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「QoS」

送信ポートの帯域制限機能（EGRESSLIMIT）と QoS の重み付きラウンドロビンスケジューリング（WRR）は併用できません。

---

### 3.5 ダブルタグ VLAN (Nested VLAN) (AT-FL-09) について

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「バーチャル LAN」

ダブルタグ VLAN（Nested VLAN）は下記の機能と併用できません。

- ・ IP サブネット VLAN
- ・ ハードウェアパケットフィルターの L3 以上の条件パラメーター（L2 は使用可）
- ・ IGMP Snooping

---

### 3.6 マルチプル VLAN (Private VLAN) について

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「バーチャル LAN」

マルチプル VLAN（Private VLAN）のプライベートポートでは、DHCP、SNMP、Telnet など、本製品との通信が必要な機能は使用できません。

---

### 3.7 フォワーディングデータベースについて

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「フォワーディングデータベース」

初回のエージアウトでは、すべてのダイナミックエントリーがフォワーディングデータベースから削除されないことがあります。ただし、2 回目以降のエージアウトではすべてのダイナミックエントリーが削除されます。

---

### 3.8 ICMP メッセージについて

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

本製品は ICMP Redirect メッセージを送りません。

---

### 3.9 BGP-4 (AT-FL-09) について

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (BGP-4)」

ADD/SET BGP PEER コマンドの MAXPREFIX に OFF 以外の値を指定し、なおかつ、MAX-PREFIXACTION パラメーターに TERMINATE を指定している場合、該当ピアからの受信パケット数が MAXPREFIX を超過して BGP セッションが切断された後、セッションを再度確立しようとして TCP SYN パケットを繰り返し送することがあります。

---

### 3.10 DHCP サーバー機能について

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「DHCP」

DHCP サーバー機能とマルチプル VLAN（Private VLAN）は併用できません。

## 4 未サポートコマンド (機能)

以下のコマンド (機能) はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。

- 以下のキーワードを含む全コマンド  
ENABLE の後に [?] キーを押すと表示される機能別キーワードです。  
APPLETALK, CLNS, FIREWALL, GARP, GRE, GUI, HTTP, IPX, L2TP, LDAP,  
LOADBALANCER, LB, PIM, PIM6, PKI, PPP, PPPOE, RSVP, SA, SSL, STAR
- 以下のコマンド (パラメーター)  
下線が引いてあるコマンド (パラメーター) は「CentreCOM 8948XL コマンドリファ  
レンス 2.6」(Rev.B) に記述があります。

COPY  
DUMP  
START PKT  
STOP PKT  
SET PKT  
TRACE [ADDRONLY]  
PING [IPXADDRESS] [SIPXADDRESS] [APPLEADDRESS] [SAPPLEADDRESS]  
[OSIADDRESS] [SOSIADDRESS]  
SET PING [IPXADDRESS] [SIPXADDRESS] [APPLEADDRESS]  
[SAPPLEADDRESS] [OSIADDRESS] [SOSIADDRESS]  
PURGE PING TOTALLY  
  
SHOW SWITCH SOCK  
SHOW SWITCH TABLE  
SET SWITCH SOCK  
SET SWITCH PORT [JUMBO]  
[SPEED={10MHAUTO;10MFAUTO;100MHAUTO;100MFAUTO;  
1000MHAUTO;1000MFAUTO; 1000MHALF; 1000MFULL}]  
ENABLE/DISABLE SWITCH BIST  
  
ADD/SET/SHOW/ENABLE/DISABLE IP EGP  
ADD/DELETE/SHOW/ENABLE/DISABLE IP HELPER  
ADD/SET/SHOW IP SA  
SET IP INTERFACE [VJC]  
SHOW IP CACHE  
SHOW IP POOL  
SHOW IP ROUTE TEMPLATE  
SHOW IP ROUTE [CACHE]  
SHOW IP ROUTE MULTICAST  
SHOW IP FLOW  
ENABLE/DISABLE IP FOFILTER  
ENABLE/DISABLE IP MULTICASTSWITCHING  
ENABLE/DISABLE IP SRCROUTE  
  
ADD/SET/DELETE DVMRP DLC  
ADD/SET/DELETE DVMRP INTERFACE [DLC]

```
CREATE ENCO KEY TYPE={DES;3DES2KEY;3DESINNER;GENERAL} [MODULE]
[ {RANDOM;VALUE} ] [FORMAT={HEX;NIQ}]
ENABLE/DISABLE ENCO COMPSTATISTICS
SET ENCO MODULE
SET ENCO SW
SHOW ENCO CHANNEL
SHOW ENCO COUNTER={DES;HMAC;JOBPROCESSING;PRED;STAC;
USER;UTIL}

SET BOOTP MAXHOPS
```

## 5 コマンドリファレンスについて

---

最新の日本語版コマンドリファレンス「CentreCOM 8948XL コマンドリファレンス 2.6 (J613-M0021-12 Rev.B)」は弊社 Web サイトに掲載されています。本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちのコマンドリファレンスが上記のものでない場合は、弊社 Web サイトで最新の情報をご覧ください。

※パートナンバー「J613-M0021-12 Rev.B」は、コマンドリファレンスの全ページ（左下）に入っています。

<http://www.allied-teleasis.co.jp/>